

令和 7 年度 授業改善推進プラン

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	○社会生活に必要な国語の特性を理解し、適切に使う能力。 ○様々な文章を読み、的確に理解する能力。 ○自分の考えや感じたことを伝える能力。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 48.6% ○全国平均を下回っている領域がほとんどである。知識・技能の領域の学習を充実させ、それを土台として、思考力・判断力・表現力を伸ばしていきたいと考える。	○漢字プリントや小テストで知識・技能の定着を図るとともに、意味調べや短文づくりをとして、語彙力を高める。 ○「話すこと」「書くこと」「読むこと」の基礎的な学習を繰り返し行い、基礎的な学力の充実を図る。
社会	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	○教科のベースとなる知識・技能。 ○思考・判断・表現において、自らの思考を文章や資料を活用して適切に表現する能力。	○基本的な知識・技能が定着していない。 ○知識を活用した思考・判断・表現において、自らの理解した自称を、文章をもとにして思考・表現することができない。	○基礎を大切に、教科書を基本として知識・技能を丁寧に習得させていく。 ○ノートやワークシートなどを用いて、さまざまな資料を活用しながら、自らの思考を適切に文章で表現できるよう指導する。
数学	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	基礎的、基本的な知識・技能の習得をより多くの演習問題を解くことにより向上させ、数学的なより高い活用力を身に付ける。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 44.0% 全ての領域において全国平均を下回っている。知識・技能を確実に定着させることが課題である。領域 A の数と式が一番正答率が低かったため、基礎計算の力を伸ばしていく必要がある。	習熟度別授業を継続する。個人の学習状況を把握しながら机間指導を行う。生徒が自身の課題を見つけ、克服に向けた継続的な学習ができるよう ICT を活用していく。基礎的・基本的な学力の定着に向けて小テストなどを用いる。定期テスト前はテスト向けの課題などを提示し学習に取り組む意欲を向上させる。
理科	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	自然の事物・現象に進んで関わりながら知識を深め、観察実験を行って科学的に探究する力。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 43.6% 定期テストにおいては、どの学年においても知識・技能の達成度よりも思考・判断・表現の達成度のほうが低い。 知識・技能を活用した探究的な課題に取り組む力が不足している。	実験観察の手法を理解し、目的をもって実験に臨み、考察を行うことを心掛ける。 基本的な知識・技能を身に付け、それを活用した発展的な課題に向き合う力の育成を目指す。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽を形づくっている要素や要素の関わりによって生まれる曲想や雰囲気を感じ取る。知覚したことと感受したこととの関わりについて考え音楽表現に生かす技能を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽の諸要素について、名前やその働きの理解や、音楽様式を歴史的な背景と照らし合わせて、理解し感受することはできている。しかし、音楽の諸要素の関わりによって生まれる曲想や雰囲気を自らの知識を駆使して説明し、音楽表現に生かす技能が身につけてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽の諸要素の基礎基本を繰り返し学習させる。 ○その要素の働きを知覚し表現に生かすよう、具体的な課題を示し、学習活動を展開させる。 ○主体的な学習活動の場(パート練習)を十分に設け、生徒が意見を交換しながら練習に取り組み課題達成を目指す学習ができるようにする。 ○タブレットに学習したワークシートや合唱曲の音源をアップし、主体的な学習を促す
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○表現方法を工夫し、創造的に表現することができる。 ○主題を生み出し豊かに発想し構想を練ることができる。 ○創造活動の喜びを味わい、主体的に学習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各題材の目標を明確に示すことで、意欲的に制作することができる。技能と表現の関わり、知識や鑑賞と主題の関わりを意識させ、制作に生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートや練習課題で創造的に表現するための技能を高めていく。 ○鑑賞と制作を関連付けて学習を進めていく。ICT機器や参考作品を活用し、学習のねらいを明確にする。 ○机間指導などの際、試行錯誤や工夫改善の様子などを捉えながらアドバイスや指導をしていく。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○運動やスポーツを積極的に親しむ資質や能力を育てる。 ○スポーツや保健に関する時事的問題について、関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツや保健に関する時事問題について、関心がない。単元の中で調べ学習など計画を立てる。 ○体力調査において、持久力や投力などは東京都平均値より低い。 ○授業で学習したことを実生活に生かすような主体的な学習方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に取り組むために、ワークシートを工夫し、家庭学習と授業のサイクルを確立させる。(ICTの活用) ○始業10分間を自らの課題に取り組む時間とし、体力向上に向けたトレーニングを行う時間を確保する。 ○運動能力や体力の向上を図るために定期的に測定を行う。
技術・家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ○生活と技術についての基礎的な知識と技術の習得を目指す。 ○知識・技能を深め、生活をよりよくしようとする能力と態度の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識の習得と、活用について生徒ごとの差がみられ、作業進度にも大きく影響がでてしまう。 ○定期考査について、応用問題に対する解答の質がなかなか高くない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル教科書の動画を効果的に使用し、見てから実際に触れ、活用し身に付ける。 ○基礎的な技術を繰り返すことにより正しい技能も身に付ける。 ○作業が遅れがちな生徒に対し、個別対応を行い技能習得の支援を行う。

令和7年度 授業改善推進プラン

外国語 (英語・国際)	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	○様々な形式の文章を読み、概要や要点をとらえる能力。 ○学んだ知識を活用し表現する能力	○正確な聞き取りや読む力も身に付いてきているが、大きな個人差がある。 ○文章の概要を捉える読解力が低い。 ○社会的な話題の文章の読み取りが苦手な傾向が見られる。 ○自分の考えと理由を英文で表現できない生徒が目立つ。	○2、3年生に対して100語程度の文章を継続的に読ませ、まとまった英文を読むことに慣れさせる。社会的な内容も含め、幅広い内容の文章を扱う。 ○普段の授業において発話の機会を確保するとともに、学期に1回以上のパフォーマンステストを実施し、学んだことを表現する場を確保する。 ○さまざまな話題に対して自分の気持ちや意見を書く訓練をする。
道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	○道徳的諸価値について理解し自己を見つめ物事を多面的・多角的に考えることと道徳的に判断していこうとする能力を育てる。	○話し合い活動を充実させ、他社の考えを受容する態度を培うことで、物事を多面的・多角的に考えさせ、自身の考えを深める力を養う。	○評価の観点を学期ごとに絞ると同時に具体的な学習内容により指導計画を工夫する。教科書を中心としながらさまざまな教材を活用したり、道徳の授業を教員がローテーションしながら指導法と評価法を共有していく。
特別活動	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	○学校行事やより良い生活や人間関係を築くための活動を通して、人間としての生き方の自覚を深めさせる。	○実行委員やリーダーを中心に前向きな取組ができています。多くの生徒は相手の特性を尊重し思いやりを持って活動しています。	○行事について、実行委員会の生徒を中心に生徒主体の活動の場を多く計画し、互いに競い高め合う学習活動を展開する。より良い結果を目指し切磋琢磨しながらそのプロセスを大切に重んじる指導を心がける。
総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	○生きる力を育てるために、課題発見能力、問題解決能力、論理的思考力を育成する。	○実践的な活動を中心に、協働学習の推進を行う。調べ学習やその他の活動においても、各種ICT機器を活用しながら、自らの考えを深められるよう指導の工夫を行う。	○各教科や領域で得た知識を総合的、横断的に活用し応用する力を育てるために、行事から生き方などの進路学習という幅広い範囲で、課題を設定し、さまざまな情報や知識を活用しながら問題を解決する学習活動を展開させる。